

②農村計画学会 2015 年度秋期シンポジウム（第 3 報）

大会実行委員会・学术交流委員会

テーマ：対流する人材による地域の新たな担い手像～石川からの地方創生～

日 時：2015 年 11 月 28 日(土) 13:00～17:30

会 場：金沢大学角間キャンパス自然科学本館大講義室 A

趣 旨

地域再生の方策は多様であるが、特に 2015 年 8 月に公表された国土形成計画（全国計画）では、都市と地方の間で若い世代の人材が「対流」し、地方での活動がキャリアとして評価される社会が 1 つのモデルとして提示されている。都市と農山村の関わりから得られる経験や能力の本質が今改めて問われている。他方で、日本を始め東アジア地域の農山漁村地域は、解決すべき課題において多くの共通点を有する。日本と韓国の農村地域の過疎化・高齢化の問題について、両国内ではこれまで数多くの議論がなされ、多くの研究論文が蓄積されてきた。それらが個別に、相手国に紹介されることはあったが、まとまって議論されることはほとんどなかった。農村計画研究分野は国際的な共通研究基盤がやや狭いことも一因となっており、国際間の比較研究はその重要性に反して進展が遅れてきたのも事実である。

本シンポジウムでは 2 部構成で、まず第 I 部では日韓の農村計画研究の事例報告を行い、双方の知見を共有することによって研究手法やビジョンの共通点や相違点を明確にする。山崎寿一氏（神戸大学大学院）からは、まず日韓農村計画の差を議論するための土台として、日本、特に能登の過疎問題や農村再生に関する情報を報告いただく。対して Lee, Seong Woo 氏（Seoul National University）からは、6 次産業化を通じた多様な主体の関わりについて韓国農村計画の現状を報告頂き、日韓の差違からみる地方創生の方向性について理解を深めることを目指す。

次いで第 II 部では話題をローカルに絞って、石川県における地方創生の現状について公・民の立場から話題提供を行う。第 1 報告は、西川透氏（石川県農林水産部）より、地域資源を活用した地方創生の取り組みと効果について報告いただく。第 2 報告は、山本亮氏（輪島市地域おこし協力隊）に、自身が担う現在の仕事（役割）や今後の展望について、現役の地域おこし協力隊の視点から地方創生の現況を報告いただく。第 3 報告は、外部から人材を受け入れる山村地域の組織として、小中真道氏（NPO 法人くくのち）より、人材の呼び込み方法やそれらの人材にかかる期待と注意点、地域から離れたあとの対処、定住へのハードル等を報告いただく。

総括として、第 I 部と第 II 部で報告された内容を踏まえて、今後の農村計画研究の高度化と地域課題の解決に関する総合的な議論を行う。なお、本シンポジウムは日韓両国で毎年相互開催をしている日韓農村計画学会交流セミナーとして開催するものであり、日本学術振興会の二国間交流事業の支援を受けるものである。

プログラム（新案）

司会：一ノ瀬友博（慶應義塾大学）

- | | |
|---|-------------|
| 1. 開会挨拶 | 13:00～13:10 |
| 2. 第 I 部 日韓農村計画学会からの報告 | 13:10～14:40 |
| 日本農村計画学会からの報告：山崎寿一（神戸大学大学院） | 13:10～13:40 |
| 韓国農村計画学会からの報告：Lee, Seong Woo（Seoul National University） | 13:40～14:20 |
| 双方の取り組みを踏まえた意見交換 | 14:20～14:40 |
| 休憩（10分） | |
| 3. 第 II 部 地方創生に関する地域からの発信 | 14:50～16:20 |
| 石川県の里山里海を活用した地方創生の取り組みと効果： | |
| 西川透（石川県農林水産部里山振興室 室長） | 14:50～15:20 |
| 地域おこし協力隊の視点からの生業の創生や今後の展開について： | |
| 山本亮（輪島市地域おこし協力隊） | 15:20～15:50 |
| 「対流」する人材と地元との関係構築や協働について： | |
| 小中真道（NPO 法人くくのち） | 15:50～16:20 |
| 4. 総合討論 | 16:20～17:20 |
| 5. 閉会挨拶 | 17:20～17:30 |

*詳細は農村計画学会ホームページに掲載いたしますのでご参照下さい。